

## I 研究主題

国語科における「活用する力」を高める言語活動の授業改善  
～「読むこと」領域における思考スキルの育成を通して～

## II 主題設定の理由

これからの社会は、「知識基盤社会」の進展等、ますます変化が激しくなることが予測されている。そのような社会では、学校で学んだ知識や技能を基に、「溢れる情報から必要な情報を取捨選択し、選んだ情報を活用する能力」の育成が、より一層求められている。

これを受けて、学習指導要領は、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、「生きる力」を育成することで、現代社会の課題を解決し、21世紀を生き抜く力を育てることを目標としている。さらに、小学校学習指導要領国語科の目標には、「国語による表現力と理解力の育成」「伝え合う力の育成」「論理的な思考力や想像力及び言語感覚の養成」「国語に対する関心を高めたり尊重したりする態度の育成」という4つの柱が示されている。国語科で習得した知識・技能を活用しながら、論理的な思考力や想像力及び言語感覚を働かせ、問題解決する力を高めることで、「生きる力」の育成を図ることが必要である。

本県児童の国語科の実態に目を向けてみると、過去7回の全国学力・学習状況調査における平均正答率は、A問題が全国比で101.4、B問題が97.6である。本校児童においても、同様の傾向がみられた。この現状を受け、「第二次宮崎県教育振興基本計画」における施策の目標Ⅱ「生きる基盤を育む教育の推進」の施策2「確かな学力を育む教育の推進」において、「活用する力」を高める授業改善の重要性が指摘されている。本県の平成26年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙と学校質問紙を比較すると、「自分の考えを深めたり、広げたりする」活動について、児童と指導者の間に、認識の差がみられた。この原因は、「適切な思考方法を選択する力」の育成や、「思考したことの表現方法」についての指導が十分ではなかったことにあると考えられる。そこで本研究では、国語科の学習に必要な思考力・判断力・表現力を身に付けるために必要なスキルを「思考スキル」と定義し、この育成を通して「活用する力」を高める研究を進めることにした。研究領域については、本県児童がB問題でこれまでに全国平均を上回ったことがない「読むこと」領域とした。

理論研究においては、まず、国語科「読むこと」領域の物語文を学習するために、身に付けておくべき思考スキルの構成要素を明確にし、児童の発達の段階に応じた思考スキルを具体的に示す。さらに、思考を可視化する「思考ツール」や言語化する「思考のことば」を活用した授業の在り方を研究する。次に、児童の意識調査の実施、全国学力・学習状況調査B問題の出題傾向の分析を通して、児童が身に付けておくべき思考スキルを究明する。これらの分析結果を関連づけながら、思考スキルの考えを生かした授業の在り方を研究する。

実践研究においては、思考ツール、思考のことばを活用した授業の在り方について研究するために、第5学年の物語文単元で検証授業を実施する。検証授業では、まず、思考スキルの考えを生かした単元指導計画を作成し、1単位時間ごとの指導の流れを確立する。その上で、読解指導と単元を貫く言語活動との関連づけを図ることで、目的意識をもった読みができる授業の在り方を考察する。

これらの研究を通して、国語科における「活用する力」の向上を図るためには、思考スキルを育成することが有効な手立てであることを検証し、本県・本校の国語科の課題解決を図る。

### Ⅲ 研究目標

国語科「読むこと」領域の言語活動における思考スキルの育成を通して、児童の「活用する力」を高める。

### Ⅳ 研究仮説

国語科において身に付けておくべき思考スキルを明らかにするとともに、「読むこと」領域の言語活動における思考スキル育成のための指導の工夫を行えば、児童の「活用する力」が高まるであろう。

### Ⅴ 研究内容

#### 1 理論研究

- (1) 研究の基本的な考え方
- (2) 思考スキル・思考ツール・思考のことば 学年別活用例一覧の作成
- (3) 全国学力・学習状況調査B問題の出題傾向の分析
- (4) 実態調査

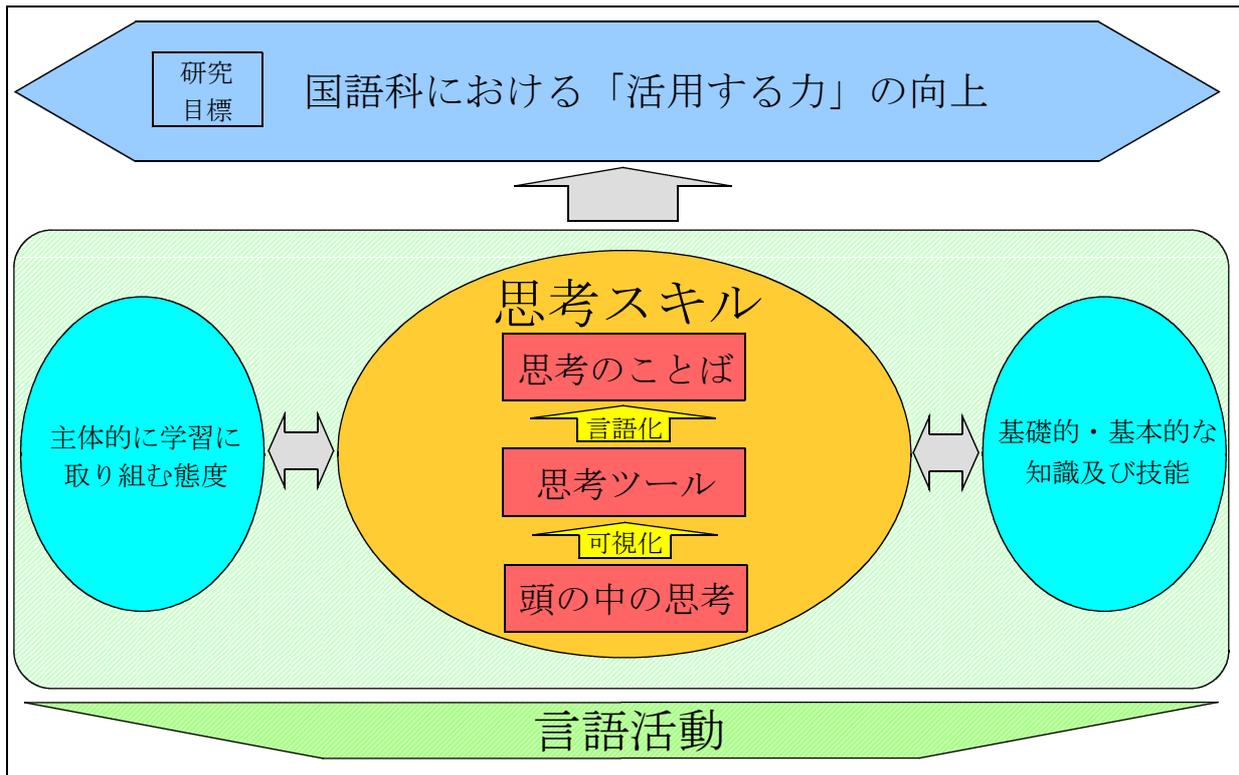
#### 2 実践研究

- (1) 思考スキルの考えを生かした単元指導計画
- (2) 1単位時間の指導の流れ
- (3) 1単位時間における指導の実際
- (4) 授業の評価
- (5) 全国学力・学習状況調査からみる変容

### Ⅵ 研究計画

月	研究内容	研究事項	備考
4	○ 研究の方向性	○ 研究主題・副題・仮説・内容・計画の設定	
5	○ 理論研究	○ 理論構築（思考スキル）	
6	○ 分析・調査	○ 全国学力・学習状況調査B問題出題傾向分析	
	○ 実態調査	○ 思考スキルに関する意識調査 ○ 全国学力・学習状況調査過去問題実施・分析	西都市立三財小学校 西都市立三財小学校
7	○ 理論の再構築	○ 実態調査分析 理論の整理	
8	○ 研究の整理	○ グループ協議会の事前準備	
9	○ グループ協議会	○ グループ協議会中間発表	
10	○ 検証授業の実施	○ 検証授業実施・分析・考察	西都市立三財小学校
11	○ 実態調査	○ 思考スキルに関する意識調査	西都市立三財小学校
	○ 研究のまとめ	○ 全国学力・学習状況調査過去問題実施・分析 ○ 全体協議会事前準備	西都市立三財小学校
12	○ 全体協議会	○ 全体協議会中間発表	
1	○ 研究のまとめ	○ 研究の成果と課題、研究報告書の作成	
2	○ 研究のまとめ	○ 研究発表会事前準備	
3	○ 主題研究発表会	○ 研究のまとめと反省	

Ⅶ 研究構想



研究内容	
<p><b>1 理論研究</b></p> <p>(1) 研究の基本的な考え方</p> <p>(2) 思考スキル・思考ツール・思考のことば 学年別活用例一覧の作成</p> <p>(3) 全国学力・学習状況調査B問題の出題傾向の分析</p> <p>(4) 実態調査</p>	<p><b>2 実践研究</b></p> <p>(1) 思考スキルの考えを生かした単元指導計画</p> <p>(2) 1 単位時間の指導の流れ</p> <p>(3) 1 単位時間における指導の実際</p> <p>(4) 授業の評価</p> <p>(5) 全国学力・学習状況調査からみる変容</p>

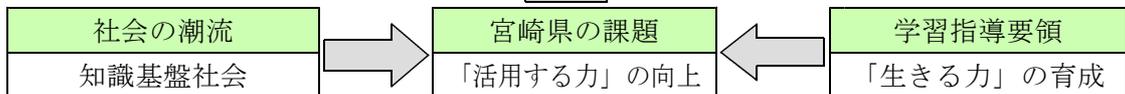
**研究仮説**

国語科において身に付けておくべき思考スキルを明らかにするとともに、「読むこと」領域の言語活動における思考スキル育成のための指導の工夫を行えば、児童の「活用する力」が高まるであろう。

**研究主題・副題**

国語科における「活用する力」を高める言語活動の授業改善  
～「読むこと」領域における思考スキルの育成を通して～

第二次宮崎県教育振興基本計画「施策の目標Ⅱ 生きる基盤を育む教育の推進」  
施策2 「確かな学力を育む教育の推進」 「活用する力」を高める授業改善



## Ⅷ 研究の実際

### 1 理論研究

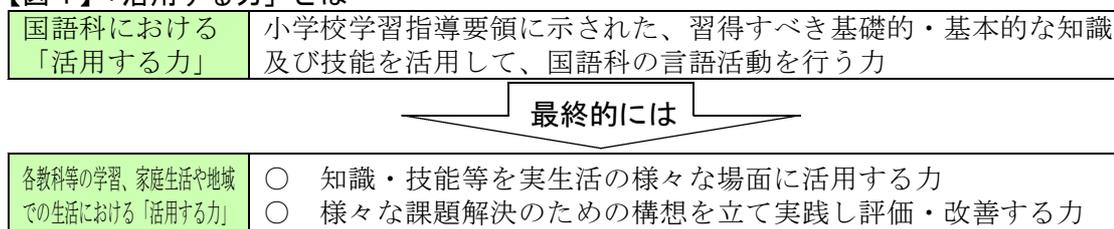
#### (1) 研究の基本的な考え方

##### ア 「活用する力」とは

本研究では、国語科における「活用する力」を、「小学校学習指導要領に示された、習得すべき基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、国語科の言語活動を行う力」と定義し、後述の思考スキルの考えを生かした授業を行うことで、「活用する力」が身に付くと考える。【図1】

最終的には、国語科での学びを生かし、各教科等の学習や、家庭生活や地域での生活において、「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力」や「様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力」につなげる。このことは、全国学力・学習状況調査の、主として「活用」に関する問題の出題範囲・内容にも明記されている。

#### 【図1】「活用する力」とは



##### イ 言語活動とは

言語活動は、研究構想図で示したように、国語科の学習活動の基盤となる皿の役割を果たしている。「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成25年）には、「学習指導要領が求める能力の構造は、基盤となる言語に関する能力の上に、思考力をはじめとする課題解決のための能力の育成が求められるという構造になっているといえよう」とあり、言語活動を通してあらゆる能力を育成するという考えが示されている。「読むこと」領域の単元においては、これまでの読解中心の学習だけではなく、単元を貫く言語活動を設定し、より目的意識をもって読むことが重要である。本研究では、思考スキルの考えを基に、思考ツール、思考のことばを用いて、物語文の読解学習と単元を貫く言語活動の関連づけを図ることができるようにする。

##### ウ 思考スキルとは

#### (ア) 19の思考スキル

思考スキルは、小学校の各教科における学習活動に必要な思考力・判断力・表現力を身に付けるために必要なスキルを具体化し、類型化したものである。先行研究の「体系的な情報教育に向けた教科共通の思考スキルの検討～学習指導要領とその解説の分析から～」（泰山・小島・黒上 平成26年）において、小学校の教科学習に必要な思考力・判断力・表現力を身に付けるために必要なスキルが、19個に類型化されることが明らかになった。【表1】

【表1】思考スキル分類表（泰山らの研究による）

思考スキル	意味
多面的にみる	多様な視点や観点にたって対象を見る
変化をとらえる	視点を定めて前後の違いをとらえる
順序立てる	視点に基づいて対象を並び替える
比較する	対象の相違点、共通点を見つける
分類する	属性に従って複数のものをまとまりに分ける
変換する	表現の形式（文・図・絵など）を変える
関係づける	学習事項同士のつながりを示す
関連づける	学習事項と実体験・経験のつながりを示す
理由づける	意見や判断の理由を示す
見通す	自らの行為の影響を想定し、適切なものを選択する
抽象化する	事例からきまりや包括的な概念をつくる
焦点化する	重点を定め、注目する対象を決める
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見をもつ
応用する	既習事項を用いて課題・問題を解決する
構造化する	順序や筋道をもとに部分同士を関係づける
推論する	根拠にもとづいて先や結果を予想する
具体化する	学習事項に対応した具体例を示す
広げてみる	物事についての意味やイメージ等を広げる
要約する	必要な情報に絞って情報を単純・簡単にする

(イ) 国語科「読むこと」領域の物語文単元において必要な思考スキル

本研究では、【表1】の思考スキル分類表を基に、光村図書の国語科教科書（平成23年度版）第1学年から第6学年の物語文単元において、必要な思考スキルについて分析を行った。分析に当たっては、教科書の単元末にある学習の手引きや、教科書会社から示されている年間指導計画例を踏まえ、実際の指導を想定しながら、必要な思考スキルを考えた。【表2】

さらに、必要とされる思考スキルを1単位時間ごとに確認し、その合計を算出した。【表3】

【表2】国語科「読むこと」領域の物語文単元において必要な思考スキルの例（坂尾私案）

思考スキル	内容
評価する	文章を読んだ感想を書いたり、新しい疑問を考えたりする。
広げてみる	登場人物の気持ちや、場面の様子を想像する。
焦点化する	「ある登場人物の立場」など、視点を決めて文章を読む。
理由づける	文章から読み取ったことを基に、理由を考えて説明する。
比較する	文章の同じところや違うところを、比べながら読む。
関連づける	これまでの生活経験と文章を関連づけて読む。
順序立てる	文章が順序立てて記述されているということに気付く。
要約する	文章を読んで要約する。
構造化する	「はじめ・中・おわり」などの文章の構成を考えながら読む。
関係づける	登場人物同士がどのような関係かを考える。
変化をとらえる	登場人物の気持ちの変化を考える。

【表3】教科書教材における思考スキルの分析結果

思考スキル	1・2年	3・4年	5・6年	全学年合計
評価する	29	28	7	64
広げてみる	36	17	1	54
焦点化する	30	13	8	51
理由づける	13	17	13	43
比較する	5	29	6	40
関連づける	10	10	4	24
順序立てる	6	0	0	6
要約する	3	13	4	20
構造化する	6	10	2	18
関係づける	0	22	12	34
変化をとらえる	0	6	9	15
見通す	1	1	0	2
分類する	1	0	0	1

※ その他の思考スキルについては、物語文単元の分析では表れなかった。

分析の結果、学習に必要な思考スキルが明らかになり、国語科「読むこと」領域の物語文単元においても、思考スキルの考えを生かした学習を展開できることが分かった。

(ウ) 共通思考スキルと重点思考スキル

学習指導要領の指導内容と教科書の分析結果から、【表1】の19の思考スキルのうち、小学校国語科「読むこと」領域の物語文単元においては、全学年で必要とされる5つの共通思考スキルと、各学年2つの重点思考スキルを特に育てていく必要があると考える。

共通思考スキルについては、同じ思考スキルでも、発達の段階に応じて、その思考レベルは変わる。そこで、先行研究「思考ツールを使う授業～関大初等部式 思考力育成法」（関西大学初等部 平成26年）や学習指導要領の各学年の目標を参考に、系統性を整理した。【表4】

【表4】共通思考スキルと重点思考スキル（坂尾私案）

		第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
共通思考スキル	評価する	学習して分かったことと疑問点を整理することができる。	判断した結果と理由を合わせて述べるができる。	判断した結果を基に、提案することができる。
	広げてみる	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に、想像して読むことができる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について、自分の考えをまとめることができる。
	焦点化する	場面の様子と登場人物の行動に焦点化して読むことができる。	登場人物の性格や気持ちの変化、情景に焦点化して読むことができる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写に焦点化して読むことができる。
	理由づける	自分の体験したことや読んだ文章を基に、理由を考えることができる。	叙述を基に、自分の考えを明確にして、理由づけを行うことができる。	複数の材料を結びつけながら、論理的に理由づけを行うことができる。
	比較する	身の回りのものとの違いや、自分の体験したこととの違いを見つけることができる。	相手や目的に応じて、比べることができる。	目的や意図に応じて、比べることができる。
重点思考スキル	関連づける 順序立てる	要約する 構造化する	関係づける 変化をとらえる	

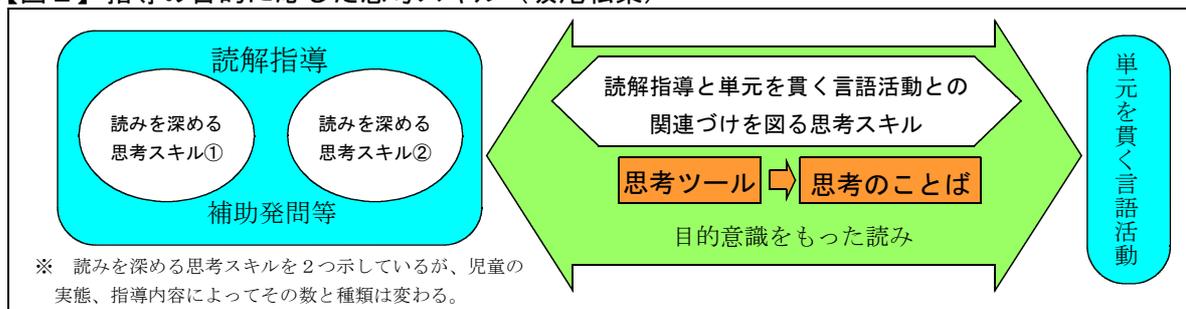
これらの国語科で培った思考スキルを基盤としながら、その他の思考スキルについても、他教科の指導内容との関連を図り、意識して育成していくことが大切である。

(エ) 指導の目的に応じた思考スキル

思考スキルは、指導の目的に応じて、2つに分類される。【図2】

「読解指導と単元を貫く言語活動との関連づけを図る思考スキル」は、後述する思考ツールや思考のことばを用いて、目的意識をもって読みを進めるために必要なスキルである。「読みを深める思考スキル」は、指導者が児童の読みを深めるために、意識しておくべき思考スキルであり、補助発問等を考える際の視点となる。これにより、学習活動の焦点化を図り、叙述に即した読みができるようにする。

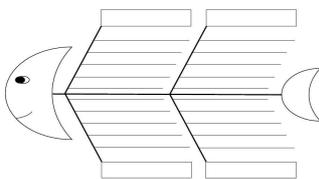
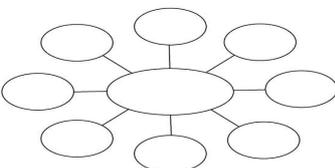
【図2】指導の目的に応じた思考スキル（坂尾私案）



エ 思考ツールとは

思考ツールとは、思考を可視化するためのワークシートで、以下のようなものがある。【表5】

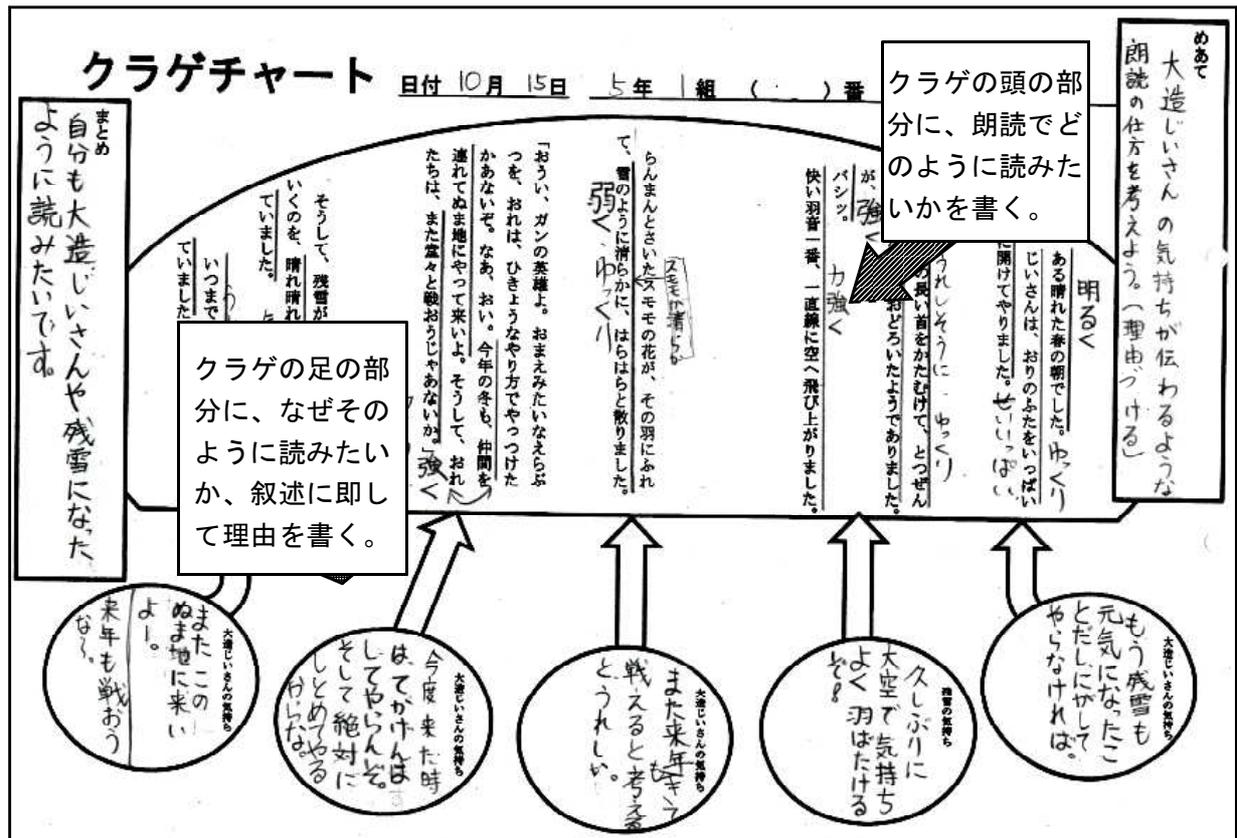
【表5】思考ツールの例

思考ツール	説明	関連する思考スキル						
お魚 ボーン図 	魚の骨の部分に自分の考えを書き込むことで思考を整理する。	構造化する 理由づける						
PMI <table border="1" data-bbox="316 1276 694 1489"> <tr> <td>P プラス いい ところ</td> <td>M マイナス もっとよくしたい ところ</td> <td>I インタレスティン グ おもしろかった ところ</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	P プラス いい ところ	M マイナス もっとよくしたい ところ	I インタレスティン グ おもしろかった ところ				プラス、マイナス、インタレスティン グの頭文字からPMIと名づけられ た。いいところ、もっとよくしたい ところ、おもしろかったところとい うように、視点を決めて感想を考 える。	評価する
P プラス いい ところ	M マイナス もっとよくしたい ところ	I インタレスティン グ おもしろかった ところ						
イメージ マップ 	一つの言葉から連想する言葉を、線 でつないでいくことで、思考を広 げる。	広げてみる						

実際の活用例として、第5学年「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう（大造じいさんとガン）」の単元における思考ツール「クラゲチャート」を示す。これは、「理由づける」スキルを可視化するための思考ツールである。【図3】

クラゲチャートを活用することで、単元を貫く言語活動である「朗読」と本時の「読解指導」を、「理由づける」という思考スキルで関連づけて学習することができる。また、「教科書への書き込み」という従来の学習方法と比べ、学習内容の焦点化を図りながら、児童にじっくり思考させる授業を展開することができるというよさがある。

【図3】クラゲチャート（思考スキル「理由づける」）の例



オ 思考のことばとは

国語科における表現の最終目標は、言語を使って話したり、書いたり、読んだりすることである。しかし、思考ツールで整理はできても、実際に文章として表現できない児童がいることが想定される。そこで、思考ツールを活用し、言語化するために必要となるのが、思考のことばである。先行研究としては、『創造的思考力を高める授業』－3年次研究－（新潟大学教育学部附属新潟小学校 平成25年）がある。

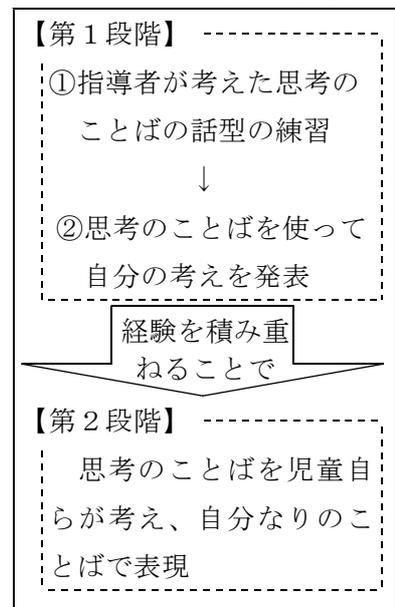
具体的には、次のように思考のことばを育成する。【図4】

まず、本時の学習における思考スキルの言語化を図るための話型を教師が予め考えておき、児童に提示する。次に、児童にその話型を練習させた後、思考ツールを説明する際に自分の考えを思考のことばに当てはめて話したり、書いたりする。このようにすることで自分の考えを伝える方法が分からないという児童が少なくなると考える。最終的には、思考のことばを児童自らが考え、自分なりのことばで表現できることを目標とする。

「クラゲチャート」の例を言語化する際は、次のような思考のことばが考えられる。

わたしは、○○というところを、△△（と）読みたいです。  
その理由は、大造じいさんの□□という気持ちが分かるからです。

【図4】思考のことばの育成（坂尾私案）



## カ 思考スキルを身に付けるための3つの段階

本研究では、思考スキルを身に付けるために、3つの段階があると考えた。【図5】

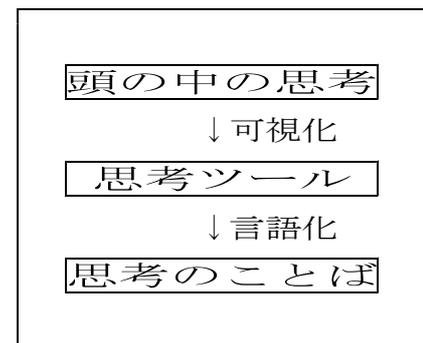
まず、頭の中で思考する段階である。そのためには、問題解決に向けて、思考スキルを選択する必要がある。

次に、思考ツールで思考を可視化する段階である。頭の中の思考を整理したり、広げたりして、目に見える形で表現する段階である。

最後に、思考のことばで思考を言語化する段階である。児童が思考ツールを活用しながら、自分の思考したことを書いたり話したりして、自分なりの言葉で表現する段階である。

この3つの段階を経て、国語科における思考スキルが身に付くと考える。

【図5】思考スキル育成の3段階  
(坂尾私案)



## キ 思考スキルの考えを生かした授業づくりの手順

思考スキルの考えを生かした授業づくりは、次の手順を進める。【図6】

### (ア) ねらい（本時目標）の明確化

本時のねらいを明確にし、達成するための手立てを準備しておくことが大切である。そのためには、教材研究が特に重要である。読解の学習では、どのような視点で切り込み、どのような力を付けさせたいか、児童の実態を基に、実際の授業における発問や言語活動を考えていく必要がある。

### (イ) 単元を貫く言語活動との関連づけを図る思考スキルの検討

単元を貫く言語活動と、読解指導の各時間における言語活動の関連づけを図るために必要な思考スキルを考える。目的意識をもって読みを進めることができるようにするためである。

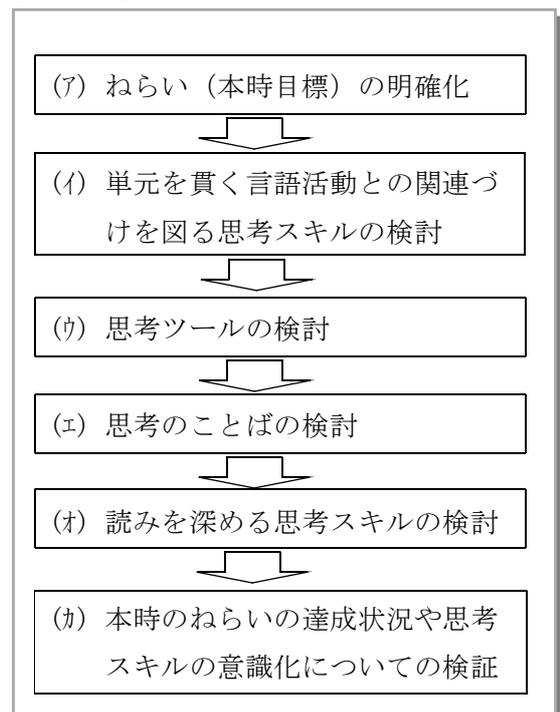
### (ウ) 思考ツールの検討

思考スキルが決定したら、思考を可視化するための思考ツールを検討する。そのためには、授業内容の焦点化が重要である。本時のねらいを達成するために、児童に最も思考してほしい部分を思考ツールとして提示する。基本の思考ツールをアレンジして、使いやすくする工夫も大切である。

### (エ) 思考のことばの検討

思考ツールで整理はできても、話したり、書いたりして言語化することが難しい児童もいる。そこで、本時の学習内容に合った思考のことばを指導者が考える。思考のことばを使って書いた自分の考えが、そのまま本時のまとめとなるようにする。それを評価することで、本時の目標の達成状況を確認することができる。

【図6】思考スキルの考えを生かした授業



(ウ) 読みを深める思考スキルの検討

思考のことばで児童が発表した意見を基に、話し合いを行う。その際、指導者が児童の意見をまとめていく上での視点や方法を考えておくことで、児童の思考スキルをより高めることができる。前述のクラゲチャートの例では、朗読でどのように読みたいか「理由づける」思考を深めるために「情景で～と書かれているから、登場人物の心情は～である。」という「関係づける」思考スキルを念頭に置きながら、授業を進める。ここでは、思考ツールや思考のことばの活用までは児童に求めない。しかし、指導者が思考スキルを意識した補助発問を行えば、話し合いの焦点化を図り、個人の思考をより深めていくことができる。

(カ) 本時のねらいの達成状況や思考スキルの意識化についての検証

使用した思考スキルの有効性を確認するために、本時のねらいの達成状況を検証する。また、本時の学習で使用した思考スキルを今後活用していけるように、思考スキルの意味や思考ツール・思考のことばの使い方を理解できたかについても振り返る必要がある。

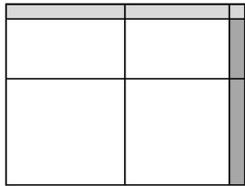
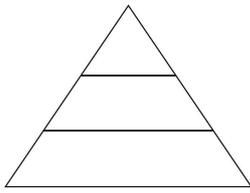
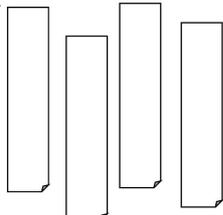
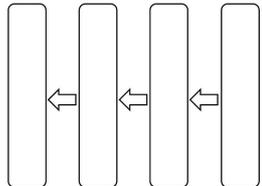
ク 思考スキル・思考ツール・思考のことば対応表

「シンキングツール～考えることを教えたい～」（泰山ら 平成24年）を参考にしながら、思考スキルを育成する際に必要な、思考ツールや思考のことばの例の対応表を作成し、授業計画を立てる際に、活用できるよう工夫した。【表6】

【表6】思考スキル・思考ツール・思考のことば対応表

思考スキル	思考ツールの例	思考のことばの例
評価する	PMI マトリックス	〇〇の感想は、△△です。
広げてみる	イメージマップ	〇〇を想像すると、△△と思います。
焦点化する	ピラミッドチャート	〇〇という視点で、△△を考えました。
理由づける	クラゲチャート お魚ボーン図	〇〇の理由は、△△です。
比較する	ベン図 マトリックス	〇〇と△△を比べると、□□です。
関連づける	ベン図 イメージマップ	〇〇は、私の△△と似ています。
順序立てる	矢印 短冊	まず、〇〇、次に、△△です。
要約する	ステップチャート	〇〇を要約すると、△△になります。
構造化する	お魚ボーン図	〇〇は、△△という構造になっています。
関係づける	クラゲチャート Yチャート	〇〇と△△は、□□と関係づけられます。
変化をとらえる	コンセプトマップ	〇〇は、△△のように変化しました。

<p>マトリックス</p> 	<p>ピラミッドチャート</p> 	<p>短冊</p> 	<p>ステップチャート</p> 
---	--	--	---

(2) 思考スキル・思考ツール・思考のことば 学年別活用例一覧の作成

児童の発達の段階を考慮しながら、「読むこと」領域の物語文単元における、思考スキル・思考ツール・思考のことばの学年別活用例一覧を作成した。【表7】

第1学年から第6学年まで、継続的に思考力・判断力・表現力を育成するための手立てを講

じていくことで、児童の「活用する力」は着実に高まると考える。

【表7】思考スキル・思考ツール・思考のことば 学年別活用例一覧①

学年	単元名(教材名) 思考スキル 思考のことば	思考ツール
一年	<p>おおきなかぶ</p> <p>順序立てる</p> <p>おおきなかぶでは、○○、△△、□□、☆☆、◇◇、××というじゅんばんで、ひとやどうぶつができます。</p>	<p><b>やじるし</b></p>
二年	<p>お話のじんぶつと自分をくらべて読もう (わたしはおねえさん)</p> <p>関連づける</p> <p>すみれちゃんは、○○けれど、わたしだったら、△△と思います。</p>	<p><b>ベン図</b></p> <p>ノートにらくがきされたら</p>
三年	<p>民話や物語の組み立てを考えよう (三年とうげ)</p> <p>構造化する</p> <p>三年とうげは、○○、△△、□□、☆☆という組み立ての民話です。</p>	<p><b>お魚ボーン図</b></p>

【表7】思考スキル・思考ツール・思考のことば 学年別活用例一覧②

学年	単元名(教材名) 思考スキル 思考のことば	思考ツール
四年	<p>読んで考えたことを話し合おう (ごんぎつね)</p> <p>変化をとらえる</p> <p>ごんは、○の場面では、△△という気持ちだったけど、□の場面では、☆☆という気持ちに変わっています。</p>	<h3>コンセプトマップ</h3> <p><b>1の場面</b> ちよいと、いなぎがしたなつた。 兵十の様子 はちまきを した顔の横つちよ うに、円いはぎ の葉が、まい 大きなはくろみ たいにへばり 付いていま 付いていま</p> <p><b>2の場面</b> ちよつ、あんないさを しなげりやよかつた。 兵十の様子 いつもは、赤 いさつまい もみたいな 元気のいい 顔が、今日は なんだかし おれていま した。</p> <p>ごんのいたずらについての考え ちよつとしたいたずらのつもりで魚をにがした。だけど、兵十がおつかあに食べさせたいと思って取ったうなぎをにがして、いたずらをしたことを後悔している。</p> <p>めあて ①と②の場面を読んで、ごんは自分のいたずらをどのように思っていたのだろう。</p>
五年	<p>作品を自分なりにとらえ、朗読しよう (大造じいさんとガン)</p> <p>理由づける</p> <p>わたしは、○○というところを、△△(と)読みたいです。その理由は、大造じいさんの□□という気持ちが分かるからです。</p>	<h3>クラゲチャート</h3> <p>強く深く それは、鳥といえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。</p> <p>ゆつくり、やまへ 大造じいさんかきまわすのは、飛雪は、もろに、はなはなわたり、おぼろげに、ゆつくり、強く、それは、長期の雨を感じて、せめて頭領としての、いけいけんを、すくすく、努力しているように、ありました。</p> <p>今が最大のチャンスだ。せつたいじとめて、飛雪は仲間を見たい。</p> <p>飛雪はかして、仲間思いだ。そこのために、</p> <p>頭領としての自覚があるな。すばらしい男だ。</p> <p>長期まで、頭領としてのプライドがあるのか、これが飛雪のかくごんのか。</p> <p>あつうの鳥ではない。人間のような、鳥に、ていまで、やられるには、</p>
六年	<p>物語を読んで、考えを深めよう (海のいのち)</p> <p>関係づける</p> <p>太一は○○という考え、父は△△という考え、与吉じいさんは□□という考えなので、3人の共通点は、☆☆です。自分はその考えを学んで、××したいと思いました。</p>	<h3>Yチャート</h3> <p>太一 ○ 父や与吉じいさのような漁師になりたいと思った。 ○ 父のかたきをうちたいと思っていた。瀬の主のようなクエに出会ったが、海のいのちと思い殺さなかった。 ○ 村一番の漁師であり続けた。</p> <p>3人の共通点 海のいのちを大切にしている。 自分はその考えを学んで... 地球かん境にやさしい社会にしたいと思った。</p> <p>与吉じいさ ○ 一本釣りの漁師で、必要以上に魚を釣らない。 ○ 「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」 ○ 太一を村一番の漁師とみとめた。</p> <p>父 ○ だれにももぐれない瀬にたった一人でもぐる、もぐり漁師。 ○ 大物をしとめても、「海のめぐみだからなあ。」と自まんしない。 ○ 不漁の日が10日続いても、少しも変わらない。 ○ 最後まで瀬の主と戦い、命を落とした。</p>

(3) 全国学力・学習状況調査B問題の出題傾向の分析

全国学力・学習状況調査B問題（「読むこと」領域・記述式）の出題傾向から、「活用する力」を高めるために、身に付けておくべき思考スキルを明らかにした。【表8】

【表8】全国学力・学習状況調査過去問題分析結果

問題	問題文	関連する思考スキル	出題傾向の分析
平成22年度 2	この物語を読んで、あなたが思ったことや考えたことを、次の条件に合わせて書きましょう。 (条件) ○ 思ったことや考えたことをはっきりと書くこと。 ○ 思ったことや考えたことの原因が分かるように書くこと。 ○ 六十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。	理由づける	根拠を明確にしなが、叙述に即した読解学習を意識的に行う必要がある。
		評価する	物語のおもしろさを自分なりにとらえる学習をする必要がある。
平成26年度 3	あなたは、【詩1】と【詩2】を比べて読んで、どのようなことを考えましたか。次の条件に合わせて書きましょう。 (条件) ○ 詩の内容や表現の仕方などについて、共通点やちがう点を取り上げて書くこと。 ○ 「たんぼぼ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書くこと。 ○ 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。	比較する	並行読書で比べ読みを行う学習が必要である。
		理由づける	叙述を基に、共通点やちがう点を、理由づけて書くことが必要である。
		評価する	詩の内容や表現について、自分なりの感想を考えさせる学習が必要である。

分析の結果、【表8】にある記述式の問題には、「理由づける」「評価する」「比較する」のスキルが含まれていることが分かった。また、【表8】と同年度の他の小問（選択式や短答式）には「構造化する」「要約する」「焦点化する」「広げてみる」などの共通思考スキルと重点思考スキルも含まれていた。このことから、国語科の授業において、発達の段階に応じた思考スキルの育成を行っていくことで、「活用する力」の向上を図ることができると考える。

(4) 実態調査

ア 思考スキルに関する意識調査

6月に所属校の5年児童21名に思考スキルに関する意識調査を実施した。【表9】

特に、「焦点化する」「理由づける」「比較する」「要約する」の思考スキルが身に付いていないと思っている児童が、他のスキルと比べて多いという結果が得られた。

イ 全国学力・学習状況調査からみる児童の実態

検証のために、6月に所属校の5年児童21名に、平成22年度国語B問題大問2を実際に解かせ、思考スキルの実態を調査した。5年生1学期という発達の段階もあり、正答率は全国平均を大きく下回っており、無

【表9】思考スキルに関する意識調査結果（6月）

思考スキル	肯定的回答 [4・3] の割合
評価する	76.2
広げてみる	85.7
焦点化する	52.4
理由づける	61.9
比較する	57.1
要約する	52.4
構造化する	76.2
変化をとらえる	81.0
関係づける	85.7

※ アンケート項目は、【表2】と同内容のもの。  
※ 回答番号 4…よくできる 3…少しできる  
2…あまりできない 1…まったくできない

解答率も高いという結果が得られた。

意識調査と全国学力・学習状況調査結果を踏まえながら、第5学年における読解指導と単元を貫く言語活動との関連を考慮した結果、検証授業においては、「理由づける」思考スキルの育成の視点から授業を行うこととした。

## 2 実践研究

10月上旬に、第5学年「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう（大造じいさんとガン）」の単元において、思考スキルの有効性を検証するための授業を行った。

### (1) 思考スキルの考えを生かした単元指導計画

単元指導計画に、読みを深める思考スキルと、単元を貫く言語活動との関連づけを図る思考スキルを明示し、単元全体の見通しをもって指導を行った。【表10】

【表10】思考スキルの考えを生かした単元指導計画

主な学習内容及び学習活動	時間	読みを深める思考スキル (思考の具体的内容)	単元を貫く言語活動との関連づけ を図る思考スキル(◆思考ツール)
1 全文を通読し、単元名・リード文から学習の見通しをもつとともに、「朗読」について知る。	1	比較する（音読と朗読の違い）	理由づける (◆お魚ボーン図)
2 「情景」について理解し、それを踏まえ、 <b>1</b> の場面での大造じいさんの残雪に対する心情を読み取り、朗読に生かす。	1	関係づける（情景と大造じいさんの心情） 変化をとらえる（大造じいさんの心情）	理由づける (◆クラゲ・チャート)
3 <b>2</b> の場面での大造じいさんの残雪に対する心情を読み取り、朗読に生かす。	1	関係づける（情景と大造じいさんの心情） 変化をとらえる（大造じいさんの心情）	理由づける (◆クラゲ・チャート)
4 <b>3</b> の場面前半での大造じいさんの残雪に対する心情を読み取り、朗読に生かす。	1	関係づける（情景と大造じいさんの心情） 変化をとらえる（大造じいさんの心情）	理由づける (◆クラゲ・チャート)
5 <b>3</b> の場面後半での大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取り、朗読に生かす。	1	関係づける（残雪の様子と大造じいさんの心情）	理由づける (◆クラゲ・チャート)
6 <b>4</b> の場面での大造じいさんの心情を読み取り、朗読に生かす。	1	変化をとらえる（残雪と大造じいさんの関係） 関係づける（情景と大造じいさんの心情）	理由づける (◆クラゲ・チャート)
7 自分の好きな場面の朗読の仕方を考え、朗読を発表し、感想を伝え合う。	1	比較する（友達の朗読と自分の朗読）	評価する (◆マトリックス)
8 残雪とハヤブサの戦いの場面を読み、短文が続く書き方の工夫について話し合い、短文を続けることで動きを表現する書き方の練習を行う。	1	関係づける（大造じいさんとガンの表現の仕方と自分の作文）	広げてみる (◆イメージマップ)

(2) 1 単位時間の指導の流れ

検証授業においては、次のような流れで、1 単位時間の指導を行った。【表11】

【表11】 1 単位時間の指導の流れ

段階	学習内容および学習活動（第6時の例） (☆読解指導と単元を貫く言語活動との関連づけを図る思考スキル ★読みを深める思考スキル ◆思考ツール ▲思考のことば)
つかむ 2分	1 本時のめあてと必要な思考スキルを確認する。 大造じいさんの残雪への思いが伝わるような朗読の仕方を考えよう。(☆理由づける) ◆ クラゲチャート
考える 9分	2 大造じいさんの残雪への思いを考えながら、思考ツールに自分の考えをまとめる。 ○ 頭の部分…どのように朗読したいか、自分の考えを書く。 ○ 足の部分…なぜそのように読むのか、大造じいさんの気持ちを想像しながら書く。
深める 28分	3 クラゲチャートを使って、自分がどのように読みたいかを理由とともに発表し、互いの意見を聞いて読みを深める。 ▲ わたしは、○○というところを、△△（と）読みたいです。その理由は、大造じいさんの□□という気持ちが分かるからです。 ○ 話合い ★ 関係づける…情景と大造じいさんの心情 ★ 変化をとらえる…大造じいさんと残雪の関係の変化 ○ 自分の考えの修正
まとめる 6分	4 本時のまとめと振り返りをする。 ○ グループで、思考ツールを見ながら、朗読をする。 ○ 今日のまとめを書く。

(3) 1 単位時間における指導の実際

思考スキルの考えを生かした検証授業（第6時）における、段階ごとの指導の詳細は、次のとおりである。

ア つかむ段階

- 前時までの学習の振り返り

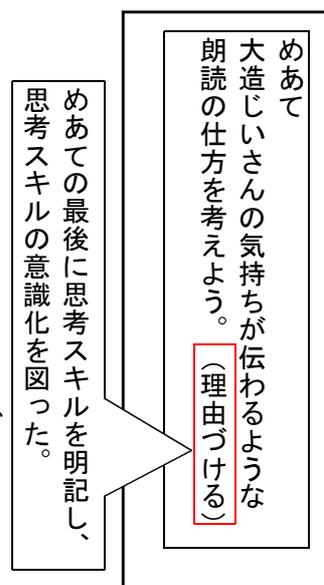
思考ツールへの記述の仕方に慣れ、さらに深い読みをそれぞれの児童ができるようにするために、前時の思考ツールに書かれた全員の記述を1枚にまとめた。それを見ながら、前時の振り返りを行った。

- めあての設定

児童とともに、本時のめあてや思考スキル、思考ツールを考えることで、主体的な学びとなるよう工夫した。また、めあての最後に思考スキルを明記し、意識づけを行った。【図7】

さらに「思考ツールの3か所以上に記述する」というように、具体的な活動目標を児童と相談しながら設定した。①の場面では、5か所のうち、3か所以上だった目標が、④の場面では5か所全てに書くという高い目標に変わり、意欲を高めることができた。

【図7】 めあての板書の例



## イ 考える段階

### ○ 思考ツールへの記述が進まない児童への支援

記述が進まない児童については、前時の意見をまとめたプリントを一緒に確認することで、前時の学習を想起させながら助言を行った。次は助言の例である。

「今が、最大のチャンスだ。」という気持ちから、「残雪です。」のところを、「力強く、強調して」読んでいましたね。では、今日の場面では、大造じいさんはどんな気持ちでしょう。それをどのように読んだらよいでしょう。

また、読みを深める思考スキルを意識した補助発問を個別に行うことで、読む視点を焦点化させる助言を行った。

### ○ 座席表の活用による意図的指名への準備

机間指導の間に、児童に発表してほしい意見が書かれているクラゲチャートの部分の番号を座席表に記し、深める段階の意図的指名につなげた。その際、全員が発表できるようにするとともに、多様な意見を引き出せるよう、発表部分のバランスを考えながら、記録した。【図8】

児童の優れた意見が多く書かれている部分については、児童の意見を中心に話し合いを行う一方で、指導者の意図した意見が十分出ている部分については、補助発問により、読みを深められるようにした。

【図8】座席表の活用例

5年 / 組		座 席 表			/ 0月 / 5日 / 3校時	
教科名	国 語	単元名	大造じいさんとガン	内容	田の場面	
		③	②	①	②	①
		⑤	①	②	②	⑤
		②	⑤	②	①	③
		⑤	④	②	②	
教 卓						

↑  
児童に発表してほしい意見が書かれているクラゲチャートの部分の番号を記す。

## ウ 深める段階

### ○ 思考のことばの練習

思考のことばの基本話型の練習を行い、自信をもって発表できるようにした。その後、自己決定した自分が発表したい部分を、思考のことばにあてはめて練習させた。【図9】

### ○ ワークシートと板書の関連づけ

児童のワークシートと同じクラゲチャートを模造紙に書き、黒板に掲示した。児童から出た意見を書き込むことで、構造的な板書となるようにした。

### ○ 発問計画の作成

読みを深める思考スキルを意識しながら、補助発問を予め考えることで、話し合いの段階において、学級全体の読みをさらに深めることができるようにした。

例として、第6時における、スモモの花の情景と大造じいさんの心情の関係づけを図る補

【図9】思考のことばの練習

わたしは、〇〇というところを、△△（と）読みたいです。その理由は、大造じいさんの□□という気持ちが分かるからです。

↓ 自分の発表にあてはめて練習

わたしは、「晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。」のところを、明るく読みたいです。その理由は、大造じいさんの「元気になってよかったな、残雪。」という気持ちが分かるからです。

助発問や、初めの場面と最後の場面での大造じいさんの気持ちの変化をとらえさせるための補助発問を示す。【表12】

【表12】 読みを深める思考スキルを意識した補助発問の例

読みを深める思考スキル	補助発問の例
関係づける	○ スモモの花の白色は、明るいイメージですか、暗いイメージですか。 ○ 白は、だれの気持ちを表していますか。 ○ ここから、大造じいさんのどんな気持ちが分かりますか。
変化をとらえる	○ 大造じいさんが言った「おれたち」というのは、残雪がまるで仲間であるかのような言い方ですが、 <b>1</b> や <b>2</b> の場面では、どんな関係だったのでしょうか。

○ ICTの活用

【表12】の「関係づける」スキルを深める補助発問を行う際に、スモモの花の写真を大型テレビに提示して、児童のイメージを広げられるようにした。「らんまんときいたスモモの花」という教科書の叙述に即して、スモモの木全体が写った写真を選定した。

○ 話し合い後の思考ツールへの書き込み

話し合い後に、取り入れたい友達の意見を、思考ツールに書き込む時間を確保し、自分の読みをさらに深められるようにした。これにより、考える段階において、思考ツールに自分の意見が書けなかった部分にも記述できるようにした。

エ まとめる段階

○ 朗読の練習・グループでの朗読発表

読解の学習を生かすことができるように、思考ツールを見ながら朗読の練習を行わせた。これにより、深まった読みを朗読に反映させることができた。

最後に、グループでの朗読発表を行い、単元を貫く言語活動との関連を図った。3人1組の7グループに分かれて、それぞれのグループで1人ずつ順に発表を行わせた。それぞれの解釈を生かした読みができるようにするとともに、児童の相互評価も行えるようにした。【図10】

【図10】 3人グループでの発表の様子



(4) 授業の評価

ア 学習後の児童の感想

- クラゲチャートを書くのが楽しかったです。
- わたしは、クラゲチャートの表が使いやすいなと思いました。なぜなら、「やさしく読めばいい」などの読み方と、大造じいさんの気持ちがとても分かりやすくなるからです。
- 他の物語文の時でも、「大造じいさんとガン」で習ったお魚ボン図やクラゲチャートなどを生かして、登場人物の性格などを知りたいです。

【考察】 これらの感想から、思考ツールや思考のことばには、①学習意欲の喚起、②読解学習と単元を貫く言語活動との関連づけ、③今後の思考場面での活用の意識化という、3つの効果があるということが分かった。

イ 児童意識調査結果

本単元で取り扱った思考スキルについて、児童の意識の変容をみた。【表13】

「読解指導と単元を貫く言語活動との関連づけを図る思考スキル」の「理由づける」は、クラゲチャートを用いた5回の学習を通して、自信がついたと考えられる。また、「読みを深める思考スキル」のうち「変化をとらえる」は、大幅な改善がみられた。これは、登場人物の心情の変化に着目させる発問の工夫を行った結果である。他の思考スキルについても、思考ツールや思考のことばの活用を図りながら、さらにスキルアップさせる必要がある。

また、思考ツール、思考のことばの活用についての意識調査も実施した。【表14】

クラゲチャートは5回用いたので、使い方も慣れ、よく活用できたと感じる児童の割合が高かった。他の思考ツールについても、経験を積み重ねていくことで、さらに活用できる児童が増えることが予想される。思考のことばについては、グループなどの少人数の発表で自信をつけさせていくことで、意識が向上すると考えられる。

【表13】 思考スキル 児童意識調査結果

思考スキル	6月(授業前)	10月(授業後)
評価する	76.2	85.7
広げてみる	85.7	81.0
理由づける	61.9	75.0
比較する	57.1	76.2
変化をとらえる	81.0	95.2
関係づける	85.7	85.7

(肯定的回答〔4・3〕の割合 単位：%)

※ アンケート項目は、【表2】と同内容のもの。  
 ※ 回答番号 4…よくできる 3…少しできる  
 2…あまりできない 1…まったくできない

【表14】 思考ツール・思考のことば 児童意識調査結果

質問項目	10月(授業後)
お魚ボーン図に、「大造じいさんとガン」の表現のよさを書くことができましたか。	76.2
クラゲチャートに、朗読でどのように読みたいかと、そう読みたい理由を書くことができましたか。	85.7
マトリックスに、友達の朗読の上手なところと伝わってきたことを書くことができましたか。	81.0
イメージマップに、作文の材料となる言葉を書くことができましたか。	71.4
思考のことばを使って、自分の考えを発表することができましたか。	66.7

(肯定的回答〔4・3〕の割合 単位：%)

※ 回答番号 4…よくできた 3…少しできた  
 2…あまりできなかった 1…まったくできなかった

ウ 思考ツールの記述量の変化

第1時に行った、「お魚ボーン図に大造じいさんとガンのすぐれた表現を4つ書く」という活動を単元終了後にも行い、学習内容への理解の深まりをみた。【図11】

【図11】 お魚ボーン図（大造じいさんとガンのすぐれた表現を4つ書く）

**ボーン(魚骨)図**

白符 10月21日 5年1組 ( ) 名前

**意見**  
大造じいさんとガンの文章には、すぐれた表現が4つある。

**理由①** 情景に気持ちが込められているから。  
理由の根拠: らんまんときいたスモモの花がその羽にふれて雪のように清らかにはらはらと散りました。東の空が真赤に燃えて、朝が来ました。

**理由②** 大造じいさんの気持ちの変化が伝わってきたから。  
理由の根拠: 残雪でも大造じいさんは、ぐとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思えば、再びじゅうをおろしてしましました。りゅうじゅうをぐとにぎりました。大造じいさんはほおがびりびりするほど引きしめるのでした。

**理由③** 大造じいさんの熱い思いが伝わってくるから。  
理由の根拠: (空欄)

**理由④** 大造じいさんのきん乗しドキドキしている気持ちが伝わってくるから。  
理由の根拠: (空欄)

単元終了後には、記述量の平均が、第1時と比べて約2倍に増加した。また、優れた表現を4つ書けた児童も、半数以上いた。より多くの優れた表現に気付くことができるようになり、学習内容への理解が深まっていることがうかがえる。

#### エ 思考ツールの記述内容の変化

抽出児童の①の場面から④の場面までのクラゲチャートの記述を基に、思考ツールの活用が読みの深化につながったかどうか検証した。【表15】

【表15】抽出児童Aの記述内容の変化

場面	本文	読み方	大造じいさんの気持ち
①の場面	一羽だけであったが、生きているガンがうまく手に入ったので、じいさんはうれしく思いました。	(記述なし)	一羽だけであったけど、生きているガンがひさびさに手に入ってうれしい気持ちになっていました。
②の場面	あかつきの光が、小屋の中に入がしく流れこんできました。	気持ちよさそうに	(記述なし)
③の場面前半	大造じいさんは、青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。	明るく	今度こそ取れるぞという気持ち。
③の場面後半	大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。	力いっぱい	やっとこの時がきた。ぜったいにしとめてやる。
④の場面	いつまでも、いつまでも、見守っていました。	気持ちよく	ここまでおれを熱くさせた鳥はいない。

①の場面、②の場面では、読み方、大造じいさんの気持ちのいずれかしか記述できていなかったが、③の場面、④の場面では、どちらも記述できるようになった上に、叙述に即しながら自分なりの考えで読み方や気持ちを書き、読みを深めることができた。他の児童についても同様の傾向がみられ、思考ツールの活用が思考を整理するために有効であることが明らかになった。

#### (5) 全国学力・学習状況調査からみる変容

##### ア 平均正答率・無解答率の変容

6月と11月に、本時に中心的に取り扱った「理由づける」スキルが含まれる【表8】の平成22年度と平成26年度の全国学力・学習状況調査の問題を、所属校の5年児童21名に実際に解かせ、検証授業の前後での「平均正答率」「無解答率」の変容をみた。

平均正答率は、6月実施時には全国平均を大きく下回っていたが、11月には全国平均との差が40%以上縮まった。無解答率が6月実施時は全国平均を大きく上回っていたが、11月には、逆に全国平均を下回った。思考スキルの考えを生かした授業を実践したことにより、目的意識をもって、思考しながら問題に取り組むことができたことが要因として考えられる。

##### イ 抽出児童の解答内容の変容

抽出児童（6月に誤答、11月に正答であった児童）の解答の変容をみた。【表16】

【表16】抽出児童Bの解答の変容

問題	解答内容
6月（授業前）実施 平成22年度国語B <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2</span> 二	宇宙人は魚つりをするために色々な星に移動出来るなんていいなあと思いました。なぜなら、（以下無記述）
11月（授業後）実施 平成26年度国語B <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">3</span> 三	詩1と詩2の共通点はどちらも音が入っているところです。まど・みちおさんは、音を使って動物たちや、虫たちを表現しています。これによって、タンポポが自然に愛されているんだなあということが伝わってきました。

この児童は、検証授業の単元で、「理由づける」スキルを意識しながら、クラゲチャートに、叙述に即して登場人物の心情を書くことができていた。その結果、11月に実施した全国学力・学習状況調査においても、詩1と詩2の共通点についての理由を明記できていた。このことから、思考スキルの考えを生かした授業が、自分の考えを整理したり、広げたりすることにつながり、「活用する力」を高める手立てとして有効であったと考えられる。

## IX 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- 小学校国語科「読むこと」領域の物語文単元における共通思考スキル・重点思考スキルを明らかにするとともに、思考力・判断力・表現力の育成につながる、思考スキルの考えを生かした授業モデルの構築を図ることができた。
- 検証授業においては、思考ツールに自分の考えを書くことで、思考を整理し、読みを深めることができた。その結果、単元を貫く言語活動との関連づけを図る思考スキルによって、読解指導と言語活動が関連づけられ、目的意識をもって読解の学習に取り組むことができた。
- 思考ツールや思考のことばを使って、思考を整理したり、広げたり、表現したりすることが、国語科における「活用する力」を高めるために、有効であることが確認できた。

### 2 今後の課題

- 思考スキルが高まった児童に対するノート指導の在り方や、自分なりのことばで発表する活動へ発展させるための指導の在り方について、さらに研究を深めていく必要がある。
- 国語科の学習目標や思考スキル・思考ツール・思考のことばの有効性と関連を図った、思考力・判断力・表現力に関する評価の在り方について、さらに研究を深めていく必要がある。

#### 参考・引用文献等

「小学校学習指導要領解説 国語編」 (平成20年8月 文部科学省)  
 「平成26年度全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校国語」 (平成26年4月 国立教育政策研究所)  
 「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」 (平成25年3月 国立教育政策研究所)  
 「体系的な情報教育に向けた教科共通の思考スキルの検討 学習指導要領とその解説の分析から」  
 (泰山裕・小島亜華里・黒上晴夫 著 平成26年2月 日本教育工学会論文誌)  
 「思考ツールを使う授業 ～関大初等部式 思考力育成法」 (関西大学初等部 著 平成26年2月 さくら社)  
 「シンキングツール ～考えることを教えたい～」 (黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕 著 平成24年4月 学習創造フォーラム)  
 「研究紀要第70集：創造的思考力を高める授業－3年次研究－」 (平成25年2月 新潟大学附属新潟小学校)

《研究実践校》 西都市立三財小学校